

あなたの「いつも」が地域の安心に 地域で育てる防災習慣

災害が発生したとき、自分や家族の命を守る「自助」はもちろん大切ですが、大規模な災害では、近所の人同士で声を掛け合い、助け合う「互助」の力が大きな支えになります。実際に過去の災害では、避難の呼び掛けや安否確認、救助活動など、多くの場面で地域のつながりが命を守りました。

しかし、その助け合いは災害時だけ突然生まれるものではありません。日頃からあいさつを交わしたり、地域の行事や防災訓練に参加したりすることが、いざというときの自然な助け合いにつながります。

「備えない防災」とは、特別なことではなく、普段の暮らしの中で人とのつながりを育てることであります。今日からできる地域の防災習慣を始めてみましょう。



地域でできる防災習慣

「あいさつ」がいざというときの助け合いにつながる

「おはようございます」「こんにちは」といった日頃のあいさつは、地域でのつながりを深める第一歩です。顔見知りが増えることで「今日は姿が見えないけれど大丈夫かな」「避難しよう」と自然に声を掛け合える関係が生まれます。

実際の災害では、近所の人による安否確認や避難の呼び掛けが、多くの命を守ってきました。災害時だけ助け合おうとしても、普段からの関係がなければ声を掛けることは難しいものです。まずは、近所の人へのあいさつから始めてみませんか。

地域の活動に参加して「顔の見える関係」をつくらう

自主防災組織の訓練や自治会活動、地域の清掃活動やお祭りなどは、地域の人と顔を合わせる大切な機会です。災害時には「誰が支援を必要としているのか」などといった情報が、普段からのつながりによって生かされます。地域の活動に参加することは、地域を知るだけでなく、安心して助け合える関係づくりにもつながります。「忙しいから」と敬遠せず、年に1回でも参加してみることで、防災力を高める大きな一歩になります。

地域を歩いて「防災の目」を育てよう

散歩やウォーキング、買い物など、普段歩いている道も「防災の視点」で見ると、新たな発見があります。避難所までの道のりや、土砂災害の恐れがある場所、冠水しやすい道路、倒れそうなブロック塀などを確認しておけば、いざというときに落ち着いて避難できます。普段の移動を、防災を学ぶ時間に変えてみましょう。

災害時協力井戸の募集

災害時に水道が長時間停止したとき、生活用水（トイレや清掃など）の確保として町内にある井戸を所有者の善意で利用させていただきます。登録井戸の場所は町ホームページに掲載しています。井戸を所有されている方は、登録にご協力をお願いします。

登録までの流れ

- ① 登録申出書を上下水道課に提出。
- ② 井戸の現地調査（希望者のみ1回）。
- ③ 登録通知書の送付・登録標識（登録看板）の設置。
- ④ 登録情報の公表。

登録できる井戸

- ・ 町内に所在し屋外などで使用しやすい場所にあること。
- ・ 災害時に無償で井戸水の提供ができること。
- ・ 井戸水をくみ上げるためのポンプ、またはつるべなどが付いていること。
- ・ 井戸の所在地など必要な井戸情報の公表に同意できること。
- ・ 認識しやすい場所に町から配布する標識（看板）を掲示できること。

